

# CentreCOM® 9812T/9816GB リリースノート

この度は、CentreCOM 9812T/9816GBをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.4.4 pl05(2.4.4-05)

## 2 未サポート機能

以下の項目は付属のコマンドリファレンスに記述がありますが、本製品ではサポート対象外となっていますので、あらかじめご了承ください。

- ポリシーベース QoS の「優先制御」
  - CREATE QOS FLOWGROUP コマンドの PRIORITY パラメーター
  - CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの PRIORITY パラメーター
  - DISABLE QOS PRIORITYQUEUEING コマンド
  - ENABLE QOS PRIORITYQUEUEING コマンド
  - SHOW QOS PRIORITYQUEUEING コマンド

## 3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン2.4.4 pl03から2.4.4 pl05へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 ポートの帯域制限の設定で、SET SWITCH PORTコマンドのEGRESSLIMIT パラメーターにNONE(デフォルトはNONE。一度別の値に設定しNONEに戻した場合)、または0を指定すると、パケットを送信しない動作になっていましたが、これを修正しました。NONE、0ともに無効(帯域を制限しない)設定になります。(「5.4 ポート帯域制限(EGRESSLIMIT パラメーター)について」を参照してください。)
- 3.2 DVMRPにおいて、ある経路がダウンし、新しい経路に移行しているにもかかわらず、SHOW DVMRP ROUTE コマンドで、古い経路のHold DownのステータスがYes(ホールドダウン中)と表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.3 RIPにおいて、FLUSHタイマーが過ぎても、無効(メトリック 16)となった経路情報が送られていましたが、これを修正しました。
- 3.4 ハードウェアパケットフィルターの出力スイッチポートの設定で、ADD SWITCH HWFILTERのDPORTパラメーターにポート1(またはポート1を含む複数ポート)を指定した場合、該当のフィルターエントリが正しく動作しませんでした。これを修正しました。
- 3.5 DVMRP使用時、TTL=1のマルチキャストパケットを破棄せずにルーティングしていましたが、これを修正しました。

- 3.6 IGMP スヌーピング使用時、DVMRP のパケットをスイッチングせずに破棄していましたが、これを修正しました。
- 3.7 IGMP スヌーピング使用時、ルーティングパケット (RIP, OSPF など) をスイッチングするときに複製していましたが、これを修正しました。
- 3.8 SHOW IP COUNTER = ARP で表示される ARP カウンターの arpTx (送信 ARP パケット数) が正しくカウントされるように修正しました。
- 3.9 デフォルト VLAN 以外の VLAN で、マルチキャストパケットをフラッディングするように修正しました。

### 3 本バージョンでの制限事項

---

#### 4.1 DHCP ポリシーの設定について


 「コマンドリファレンス」/「DHCPサーバー」/「DHCPポリシー」

DHCP ポリシーを複数設定して保存すると、ポリシー名が昇順 (英字はアルファベット順、数字は小さい順) にソートされて設定スクリプトファイルに書き込まれます。

CREATE DHCP POLICY コマンドの INHERIT パラメーターで既存のポリシーを継承する設定を行う場合には、次の例のように、新規に作成するポリシー名が昇順で後になるようにしてください。


例: CREATE DHCP POLICY=**BBB** LEASETIME=7200 INHERIT=**AAA**

#### 4.2 クラシファイアの設定について

 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「クラシファイア」

- CREATE CLASSIFIER コマンドで IPXSSOCKET と IPXDSOCKET パラメーターを指定しても該当のパケットが正しく分類されません。
- CREATE CLASSIFIER コマンドで IPXDADDR/IPXSSOCKET/IPXDSOCKET パラメーターを指定して IPX の設定を行った後、SET CLASSIFIER コマンドで MACTYPE パラメーターに L2UCAST を指定して設定を変更しても、該当のパケットが正しく分類されません。このような設定変更を行った場合は、設定を保存し、本製品を再起動してください。
- CREATE CLASSIFIER コマンドで SVLAN パラメーターを指定し、ハードウェアパケットフィルターのフィルターエントリで該当のクラシファイアを使用した場合、指定した VLAN 宛のパケットが破棄されます。


#### 4.3 DHCP リレー (DHCP メッセージ最大転送回数) の設定について

 「コマンドリファレンス」/「IP」/「DHCP/BOOTP リレー」

DHCP メッセージの hops フィールドの値が、SET BOOTP MAXHOPS コマンドで指定した値 (最大転送回数) より大きい場合でも、同メッセージが破棄されずに転送されます。

---


#### 4.4 SNMP MIB オブジェクトについて

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

MIB オブジェクト [ifXEntry] の一部が正しくカウントされません。

---


#### 4.5 OSPF のルート表示について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御(OSPF)」

SHOW OSPF ROUTE コマンドで経路情報が正しく表示されません。経路の確認は、SHOW OSPF LSA コマンドで行ってください。

---


#### 4.6 トレースパケットの終点 UDP ポート設定について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「一般コマンド」

SET TRACE コマンド、および TRACE コマンドのトレースパケットの終点 UDP ポートを指定する PORT パラメーターが正しく動作しません。

---

#### 4.7 ARP について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

CPUで処理されるパケットをスイッチングするときに、宛先がARPキャッシュに登録されていると、出力ポートがタグ付きポートにもかかわらず、タグなしパケットとして送信されます。

---

#### 4.8 MIB カウンターリセットについて

指定したインターフェースのMIBカウンターをリセットするRESET INTERFACE COUNTER コマンドが正しく動作しません。

---

#### 4.9 IGMP について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IGMP を有効にし、一度マルチキャストグループが登録された後、IGMP を無効にし、再度有効にしても、すぐにグループが登録されず、IGMP を無効にしたときからデータベースのタイムアウト(デフォルトは 270 秒)後に登録されるようになります。

---

#### 4.10 Telnet サーバーの有効設定について

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

DISABLE TELNET SERVER コマンドを実行し、次にENABLE TELNET SERVER コマンドを実行すると、本製品がリブートします。

---


#### 4.11 DVMRP について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

本製品を含む 3 台のルーターの DVMRP インターフェースが同一の VLAN に所属している構成で、本製品の配下にグループメンバーが存在していない場合、上流側ルーターからのマルチキャストパケットを下流側ルーターに転送せず、上流側ルーターにPruneメッセージを送信するため、下流側ルーターがグループに参加することができません。

---

#### 4.12 ファイアウォール(AT-FL-10)/ICMPメッセージの転送について

 「コマンドリファレンス」/「ファイアウォール」/「ファイアウォールポリシー」

ENABLE FIREWALL POLICY コマンドの ICMP\_FORWARDING パラメーターに ALL を指定し、ICMPメッセージを転送するよう設定した場合、本製品のPUBLICインターフェースから送信される Destination Unreachable, Time Exceeded などのメッセージの送信が遅れることがあります。


---

### 5 コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

付属のCD-ROMに収録されている「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.4 (Rev.A)」の補足事項です。

---


#### 5.1 スタティックルートの設定について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御(スタティック)」

ADD IP ROUTE コマンドでスタティックルートを設定する場合、NEXTHOP パラメーターで指定するネクストホップルーターのIPアドレスは、INTERFACE パラメーターで指定するIP (VLAN) インターフェースと同じサブネットにある必要があります。異なるサブネットに属するIPアドレスを指定した場合は、エラーによりコマンドは実行されません。

---


#### 5.2 クラシファイア(MACTYPE パラメーター)について

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

CREATE (SET) CLASSIFIER コマンドの説明で、MACTYPE パラメーターの選択肢として「L2UNICAST(ユニキャスト)」が記載されていますが、正しくは「L2UCAST(ユニキャスト)」ですので、訂正してお詫びいたします。

---


#### 5.3 VLAN 登録数について

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャルLAN」

CREATE VLAN の「備考・注意事項」に、「VLAN は 4090 個 (VLAN default を含む) まで作成できる」とありますが、正しくは「2048 個 (VLAN default を含む)」ですので、訂正してお詫びいたします。なお、VID は 2 ~ 4090 の範囲で設定可能です。

---


#### 5.4 ポート帯域制限(EGRESSLIMIT パラメーター)について

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

SET SWITCH PORT コマンドの EGRESSLIMIT パラメーターに 0 を指定した場合の説明として「帯域ゼロ(パケットを送信しない)の意味」とありますが、正しくは、NONE と同じく「帯域を制限しない」の意味になりますので、訂正してお詫びいたします。

---

#### 5.5 ファイアウォール(AT-FL-10)/ インターフェース NAT ルールの削除

 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ファイアウォールNAT」

ADD FIREWALL POLICY NAT コマンドの NAT=STANDARD で追加したルールを DELETE FIREWALL POLICY コマンドで削除する場合は、IP パラメーターの指定が必要です。ルールを追加するときに IP パラメーターを省略した場合は、削除するときに IP=0.0.0.0 を指定してください。